

# グッドプラクティスから見える、授業改善のポイント

埼玉県学力・学習状況調査の結果から児童生徒の学力を特に伸ばした「教科担当」「学級担任」を抽出し、その教師の「質問紙調査」における質問項目を調査したところ、共通して以下3つの項目に最も力を入れていることがわかった。子供の学力を伸ばした教師の取組（グッドプラクティス）を参考にすること。

## 1 本時の課題を正しく伝え、子供に見通しをもたせること

目指す子供の姿

### 課題が「自分事」となる

〈子供の具体的な姿〉

- ・課題を自分自身の問題として捉え、その解決に意欲を持っている。
- ・解決に向けて具体的・積極的に取り組んでいる。
- ・現状に満足せず、常によりよい解決策を探求している。



### 単元計画、課題の設定 (教科等、単元や本時による)

- ・教科の特質や単元内容に応じて子供が単元計画を立てたりする。
- ・単元・本時の課題を子供の言葉で立てる。
- ・単元・本時のゴールを示す。
- ・前時の終末に、次に学ぶことは何かを考える。→次時の課題につながる。

→ P10, 11へ



### 導入の工夫

- ・導入は簡潔にし、実物の提示やICTの活用、日常生活につながる課題設定をする。
- ・問題や課題は声に出す。
- ・単元・本時でどのような資質・能力が身に付くかを教師が説明できる。また、子供がどんなことができるようになればよいのかを明確に示すことができる。

→ P10, 11へ

## 2 子供一人一人の伸びや変容を気にかけ、積極的に認め褒めること

目指す子供の姿

### 友達や教師のよさに気付く

〈子供の具体的な姿〉

- ・友達を認め合う言葉や、お互いを励まし合う言葉をかけることができる。
- ・相手の思いや考えに気付いたり、受け入れたりすることができる。
- ・自分のよさに気付き、よりよい自分になれるように取り組むことができる。



### 意図的・計画的

- ・1週間を1サイクルと考え、学級の子供を認める・褒める。
- ・直接的ではなく、間接的にも褒める等、第三者による肯定的な評価を伝えると効果的である。「○○先生が『どんなことにも取り組む姿勢がよいね。』と褒めていたよ」等。

→ P5, 6へ



### 導入の工夫

- ・結果ではなく過程を認める・褒める。
- ・「一生懸命に取り組んでいるね。」、「色々な方法を考えたから答えが出せたね。」等、机間指導の中で具体的に声かけを行う。
- ・振り返りを活用して認める材料にする。

→ P5, 6へ

## 3 子供の考えを広げ深められるよう、教具を工夫して用いること

目指す子供の姿

### 見方・考え方を働かせている

〈子供の具体的な姿〉国語や算数・数学の場合

- ・個別の事象を帰納的に集めて、共通点を見出し一般化している。
- ・正解にどらわれず、様々な解法を探求している。
- ・根拠に基づいて筋道を立てて考えている。



### 学習の個性化

- ・タブレットを使うか、ノートを使うかを子供が選択できるようにする。  
※タブレット、ノートのよさを子供が理解しているとよい。
- ・子供の実態や課題に応じて個で考えたり友達と相談したりするなど子供が選択できるようにする。  
※土台となる学級・教科経営が整っていることが大切である。

→ P8, 10へ



### ICTの活用

- ・ICTが効果的な場面ではICTを活用し、アナログが効果的な場面ではアナログを活用する。
- ・思考ツールを活用する。
- ・各種アプリケーションの共有ノート機能やデジタルホワイトボード機能を活用する。

→ P9, 10へ



### 考え方をつなぐ

- ・話すことの大切だが、それ以上に「聞くこと」、「友達の考えがわかること」を大切にして、価値付ける。
- ・教師はファシリテーター役に徹して説明や解説は最小限にし、目的とゴールを明確にするとともに、発言しやすい雰囲気をつくり、子供たちの学びや気づきを活性化する。

→ P5, 6, 7へ

## ファシリテーション力を高めることで、学びの主語を子供たちに

- ①子供の発言をつなげる（学びの促進者）：教師と発言した子供と1対1の会話だけで終わっていないか。
- ②子供に気付かせる（学習者中心）：教材研究で得たものを教える・伝えるだけにならないか。
- ③子供の学びに伴走する（学びの伴走者）：子供が教師に相談したときに、安易にすぐ答えを教えていないか。
- ④子供が学びに向かう（個別最適・協働的）：課題の難易度はどうか。クラスは協働的に学びに向かう雰囲気であるか。

